

令和 6 年度

# 事業実績報告書



安曇野市農業再生協議会

---

## はじめに

年々深刻化する農業従事者の高齢化と後継者不足、農業資材等の価格高騰、頻発する自然災害の発生などの様々な課題により、農業を取りまく情勢は依然として不安定なままであります。

安曇野市農業再生協議会では「水田収益力強化ビジョン」に基づき、高収益作物の生産拡大や畑地化等の水田の有効活用など需要に応じた作付けの推進を行ってまいりました。

また、継続事業を中心に、緑豊かな田園風景維持と、持続可能な地域農業実現に向け、生産振興事業では農業技術の向上や省力化の検証、農産物販売促進事業で農産物のPR事業等に取り組んでまいりました。

この「事業実績報告書」は、農業者や関係機関（市・農業委員会・JA・農業農村支援センター等）との協力により得られた成果を広く農家の皆さまへ周知し、今後の農業振興に役立てていただくことを目的に作成しております。

本書では、令和6年度に取り組んだ生産振興事業（8事業）、集落支援事業（1事業）、販売促進事業（1事業）、の合計10事業について1冊に取りまとしました。

まだ検証過程のものもありますが、今後の創意工夫によっては農家の皆さまの所得向上や市の重要な農業農村振興に展開していく可能性もある内容であると考えますので、ご参考に、今後の農業振興の一助としていただければ幸いです。

令和7年3月

安曇野市農業再生協議会

---

---

# 事業実績報告書 目次

## 農業生産振興事業

- 1 水張り確認検証事業（衛星データを使用した水張り現地確認）………… 4
- 2 スマート農業検証事業（水田における除草機、ロボット等の導入検証）… 6
- 3 振興作物検証と販売促進連携事業（時期をずらした作物 スイートコーンの販売）… 8
- 4 地下水保全対策データ収集分析事業 …………… 9
- 5 環境にやさしい害虫防除調査事業 …………… 11
- 6 花きの病虫害防除及び品質向上事業（オーニソグラム病虫害対策）………… 14
- 7 安曇野牛ブランド化推進事業 …………… 16
- 8 畜産悪臭低減事業 …………… 18

## 農村集落支援事業

- 9 女性農業者支援事業（農業女子向け「美味しい安曇野」体験講座）… 22

## 農産物販売促進事業

- 10-1 安曇野農産物 PR 事業（安曇野生まれの新品種夏秋イチゴ PR）… 25
  - 10-2 安曇野農産物 PR 事業（みずん活動報告）………… 27
-



**農業生產振興事業**

# 1 水張り確認検証事業(衛星データを使用した水張り現地確認)

## 要約

令和4年度に水田活用直接支払交付金の対象となる水田について、令和8年度までに1回水稲の作付けをするか、たん水管理を1か月以上実施すること等の国の示す条件に該当すれば、水稲の作付けが行われたものとみなすとされた。安曇野市としても水田機能を確認するための現地確認が必要とのことであり、実際に現地で写真撮影を行うとともに、水張り期間中に穂高・明科地域での水張り結果を試験的に衛星データにより把握を行った。

その結果、結果データの読みとりが難しく、水稲作付程度の水張り状況は不透明であり、水張り現地確認の効率化には至らなかった。

現状、農業者から実施報告書(水張り開始と終了時の湛水写真)の提出を徹底したうえで、引き続き現地確認にて写真を撮ることが良いと考える。

担当者：担当者：安曇野市農政課 有賀、矢花

## 1. 課題設定の背景と目的

令和4年度に水田活用直接支払交付金の対象となる水田について、国から新たな方針が示され、令和4年度から令和8年度までに1回水稲の作付けをするか、たん水管理を1か月以上実施すること等の国の示す条件に該当すれば、水稲の作付けが行われたものとみなすとされ、令和6年度より報告書類等を整え、本格的に始まっている。

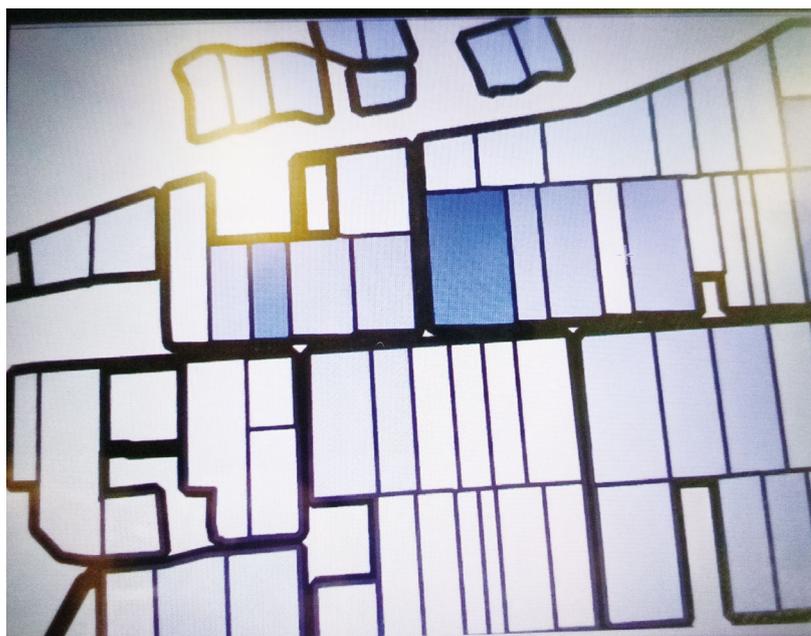
安曇野市側としても現地確認にて、水田機能の有無についての確認が必要となったが、現地確認対象の筆数が多いため、確認の効率化に繋がる衛星データを使用した実証試験を行った。

## 2. 調査研究の内容

- |             |   |
|-------------|---|
| (1) 実施時期    | 令和6年4月～7月   |
| (2) 実施地区    | 安曇野市穂高・明科   |
| (3) 業者・システム | サグリ株式会社 データバ(作物の種類を検出する作付け調査用アプリ)                 |
| (4) 供試機器    | パソコン内のIEでアプリへアクセス                                 |
| (5) 調査方法    | 上記実施時期に、衛星により水田の水張り状況を調査し、結果をPDFデータとエクセルデータにて受領する |

## 3. 結果の概要及び考察

### (1) PDF 結果



深さによって色分けがなされているが、水稲作付と同等程度の推移かは不明。また、地番も表示されないため、水田の場所の把握に時間がかかる。

## (2) excel データ

|    | A           | B        | G         | I         | O        | S         | V         | AB       | AD        |
|----|-------------|----------|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|----------|-----------|
| 1  | 地名地番        | 2024/4/1 | 2024/4/14 | 2024/4/19 | 2024/5/4 | 2024/5/14 | 2024/5/24 | 2024/6/8 | 2024/6/13 |
| 2  | 穂高有明7044-1  |          | -0.44     | -0.43     | -0.467   | -0.444    | -0.476    | -0.431   | -0.437    |
| 3  | 穂高有明7045-1  |          | -0.464    | -0.449    | -0.478   | -0.454    | -0.476    | -0.43    | -0.437    |
| 4  | 穂高有明6998-3  |          | -0.479    | -0.46     | -0.467   | -0.449    | -0.474    | -0.436   | -0.436    |
| 5  | 穂高有明9020-8  |          | -0.511    | -0.472    | -0.468   | -0.388    | -0.379    | -0.254   | -0.264    |
| 6  | 穂高有明7011-3  |          | -0.435    | -0.424    | -0.437   | -0.413    | -0.442    | -0.447   | -0.453    |
| 7  | 穂高有明9020-7  |          | -0.5      | -0.456    | -0.384   | -0.263    | -0.285    | -0.218   | -0.204    |
| 8  | 穂高有明7011-5  |          | -0.467    | -0.459    | -0.458   | -0.438    | -0.468    | -0.462   | -0.481    |
| 9  | 穂高有明7011-10 |          | -0.441    | -0.432    | -0.442   | -0.401    | -0.444    | -0.45    | -0.459    |
| 10 | 穂高有明9011-3  |          | -0.478    | -0.46     | -0.357   | -0.198    | -0.254    | -0.356   | -0.216    |
| 11 | 穂高有明9020-4  |          | -0.505    | -0.457    | -0.486   | -0.428    | -0.456    | -0.287   | -0.287    |
| 12 | 穂高有明7011-11 |          | -0.461    | -0.453    | -0.465   | -0.44     | -0.472    | -0.457   | -0.458    |
| 13 | 穂高有明9011-1  |          | -0.477    | -0.465    | -0.452   | -0.308    | -0.357    | -0.388   | -0.257    |
| 14 | 穂高有明9020-6  |          | -0.507    | -0.477    | -0.413   | -0.329    | -0.36     | -0.247   | -0.233    |
| 15 | 穂高有明7011-14 |          | -0.477    | -0.472    | -0.489   | -0.457    | -0.482    | -0.459   | -0.47     |
| 16 | 穂高有明7011-12 |          | -0.486    | -0.478    | -0.513   | -0.468    | -0.499    | -0.472   | -0.454    |
| 17 | 穂高有明9012-1  |          | -0.477    | -0.445    | -0.427   | -0.291    | -0.315    | -0.393   | -0.225    |
| 18 | 穂高有明7011-13 |          | -0.467    | -0.456    | -0.461   | -0.439    | -0.46     | -0.45    | -0.457    |
| 19 | 穂高有明7011-15 |          | -0.496    | -0.487    | -0.493   | -0.476    | -0.486    | -0.46    | -0.458    |
| 20 | 穂高有明7277-4  |          | -0.443    | -0.439    | -0.469   | -0.436    | -0.491    | -0.423   | -0.441    |
| 21 | 穂高有明9025-3  |          | -0.507    | -0.51     | -0.544   | -0.551    | -0.525    | -0.431   | -0.445    |
| 22 | 穂高有明7278-7  |          | -0.459    | -0.452    | -0.475   | -0.441    | -0.482    | -0.423   | -0.437    |

0.1 の誤差でどの程度の水張り具合かは不明

## 4. 成果の活用と今後の方向性

データアプリによる衛星データの現地確認の結果、結果データの読みとりが難しく、水稲作付と同程度の水張り状況かは不透明であり、水張りができているほ場とできていないほ場の特定は不可能であった。今年度は作物の現地確認と同様、タブレットに地番のデータを取り込み、写真撮影と併せて水田機能の確認をおこなったため、衛星データ活用による水張り現地確認の効率化には至らなかった。

現状、農業者から実施報告書（水張り開始と終了時の湛水写真）の提出を徹底したうえで、引き続き現地確認にて写真を撮ることが良いと考える。



## 2 スマート農業検証事業(水田における除草機、ロボット等の導入検証)

### 要約

水稲有機栽培における水田雑草対策として、除草ロボット2種類と乗用除草機1種類による除草効果を検討した。その結果、除草ロボットと乗用除草機を組み合わせることで、水稲有機栽培における雑草発生量の基準値とされる「幼穂形成期の雑草乾物重 50g/㎡以下」を概ね満たし、収量は535～362kg/10a(平均449kg/10a)で生産者の要望する収量(480kg/10a)も概ね満たされた。

担当者：松本農業農村支援センター 谷口 長野県農業試験場 宮原 安曇野市農政課 赤須、大竹

### 1. 課題設定の背景と目的

「みどりの食料システム戦略」では環境負荷低減と持続可能な生産方式を構築することが求められており、有機農業実施面積の大幅な拡大が目標に掲げられている。しかし安曇野市では水稲の有機農業に取り組む生産者数はまだ少なく、要因として水田雑草の除草が大きな課題と考えられている。

そこで近年開発されている除草ロボットや除草機による雑草効果を確認する試験ほ場を設置し、除草効果の検証を行った。

### 2. 調査研究の内容

(1)実施時期 令和6年5月～9月

(2)実施地区 安曇野市堀金

(3)供試機械

ア 除草ロボット A改 (N社製)

自動航行プログラムにより、ほ場内の水面を浮いた状態で移動し、田面を濁らせるとともに、ブラシで地面をかきながら、泥を攪拌することで抑草するロボット。

イ 除草ロボット M (H社製)

3輪タイプの走行ロボット。走行により田面を濁らせるとともに、ブラシで地面をかきながら除草する。現状はリモコン操縦式だが、自動運転機能が追加される予定。

ウ 乗用除草機 W (O社製)

フロント作業機の回転レーキ及び除草刃付きローターにより条間・株間を除草する乗用除草機。今回は6条用を使用。



乗用除草機W



除草ロボットA改(左)



除草ロボットM

#### (4) 試験区の構成

田植：5月29日

| 圃場名 | 番号  | 除草方法の内容  |
|-----|-----|--|
| A圃場 | A 1 | 除草ロボットA（毎日稼働※1）と乗用除草機W（6月18日・25日稼働※2）の組み合わせ      |
|     | A 2 | 除草ロボットA（毎日稼働※1）のみ                                |
| M圃場 | M 1 | 除草ロボットM（3～4日に一度稼働※1）と乗用除草機W（6月18日・25日稼働※2）の組み合わせ |
|     | M 2 | 除草ロボットM（3～4日に一度稼働※1）のみ                           |

※1 稼働時の水田水深5～10cm  
※2 稼働時の水田水深はごく浅水

#### (5) 調査項目

除草調査4回（移植9日後、20日後、27日後、54日後）計4回、成熟期及び収量調査

#### (6) 試験協力 N、H及び〇社

### 3. 結果の概要及び考察

有機栽培における雑草発生量の基準とされる「幼穂形成期の雑草乾物重」について、ロボットA改及びMと乗用除草機Wを組み合わせた区（A 1及びM 1）と、除草ロボットA改及びMのみの区（A 2及びM 2）を比較した。

その結果、除草ロボットのみでは水稻有機栽培における雑草発生量の基準値とされる「幼穂形成期の雑草乾物重 50g/㎡以下」を満たす事はできなかった。また残草草種は各区とも主にノビエ、コナギ、ホタルイが多かった。

一方、除草ロボットと乗用除草機を組み合わせることでコナギの残草はあるものの、基準値とされる「幼穂形成期の雑草乾物重 50g/㎡以下」を概ね満たすことができた。（図1）

またコンバインによる全刈収量も535～362kg/10a（平均449kg/10a）で、生産者の要望する収量（480kg/10a）も概ね満たす結果が得られた。

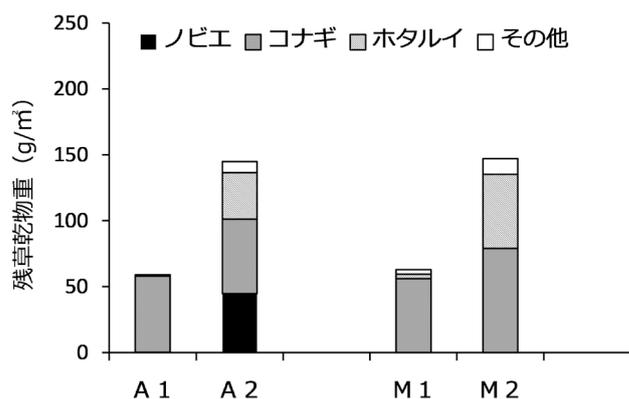


図1 幼穂形成期の雑草乾物重（7月22日:移植後54日後）

### 4. 成果の活用と今後の方向性

安曇野市は、水の濁りを利用した抑草に不向きな砂壤土地帯であるため、雑草抑制が困難と考えられているが、今回、自動除草ロボットに乗用除草機を組み合わせた除草体系により、目標とする除草効果や収量に到達できたため、安曇野市管内における水稻有機栽培の可能性が確認された。

### 3 振興作物検証と販売促進連携事業 (時期をずらした作物\_スイートコーンの販売)

#### 要 約

スイートコーンの一般的な出荷時期は7月中旬から8月上旬であるが、時期をずらした作付けについて検討。関西圏イベントの9月初旬にあわせ、7月上旬から3週にわたって播種をし、生育や雑草、害虫対策等のほ場管理について観察した。9月5日に収穫し、クール便を利用して関西圏(兵庫県)へ輸送。販売は9月7日、8日の両日行い、「約700本」を販売した。(250円/1本)

販売日初日は比較的鮮度を保っていたが、8日販売分については皮が乾燥する等、明らかに鮮度が落ちていた。スイートコーンは鮮度落ちがとて早い食材のため、常温だと24時間もすれば糖分がでんぷんに変化して美味しさが半減する、とも言われており長距離かつ複数日の販売をするためにはそこに掛ける経費を販売額への反映ができるかどうか等の検討が必要である。

担当者：J A松本ハイランド明科総合支所 柳原、中澤 安曇野市農政課 大竹、赤須

協力機関：J A松本ハイランド明科総合支所農政協議会 藤原

#### 1. 課題設定の背景と目的

これまで、明科地域の振興作物として主に白ネギ、黒大豆があるが、黒大豆は鳥獣被害や昨今の高温障害等により、振興が難しくなっている状況にある。東京で実施されたイベントにおいて、スイートコーンが好評であったため、明科地域の振興作物としてスイートコーンが対象となり得るか検証した。また、時期をずらした作付けをすることによって、適正な価格反映ができるかについても課題となる。

昨今の気象条件や作業の負担等を考慮し、時期をずらした農産物の可能性とその課題をあらい出すことによって、生産振興となり得る作物を検討する。

#### 2. 調査研究の内容

(1)実施時期 令和6年4月～9月

(2)実施地区 安曇野市明科

(3)試験区の構成

(4)その他 値段設定 250円/本

|     | 作業    | 播種    | 収穫1   | 収穫2   | 収穫数/本 | 販売先            |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|
| ほ場1 |       | 7月1日  | 9月5日  | —     | 500   | 関西圏イベント        |
| ほ場2 | 4月29日 | 7月8日  | 9月5日  | 9月15日 | 200   | 関西圏イベント        |
| ほ場3 |       | 7月15日 | 9月15日 | 9月16日 | 500   | ファーマーズガーデンあかしな |

#### 3. 結果の概要及び考察、今後の方向性

スイートコーンの播種は、イベントの開催日から逆算し、リスク分散のため7月1日、7月8日、7月15日の計3回に分けて行った。時期をずらした作付けのため、播種から収穫までの期間の算定や台風などの気象災害の不安があったが、大きな被害もなく無事収穫ができた。スイートコーンは鮮度の落ちが早く、イベント直前での収穫が必須となるため、天候などの影響によるリスクが高いこと、輸送や冷却保存など課題が多くあると感じた。関西圏によるスイートコーンの販売は、想像以上に人気が高く、2日間で延べ1時間ほどで約700本が完売となった。

スイートコーンの鮮度維持について、費用と価格反映が適正かどうかを検討する必要がある。



<関西圏イベントの様子>

## 4 地下水保全対策データ収集分析事業

### 要 約

市内の地下水から一定量の硝酸態窒素が検出されたことを受け、窒素施肥量及びりんご園の土壌診断による硝酸態窒素量を把握し、市環境課等の水質調査と併せて推移を観察する。

具体的には、JA あづみの協力により、生産記録の集計・土壌診断のデータ収集・施肥基準の把握を長期にわたって集計し、単位面積当たりの平均施肥量や土壌中の硝酸態窒素の平均量を把握する。

担当者：安曇野市農政課 大久保

### 1. 課題設定の背景と目的

平成 24 年 4 月、市生活環境課（当時）は、毎年の調査で地下水から硝酸性窒素が比較的多く検出される三郷・堀金地域において、原因の分析結果を公表した。対象 2 地域内で 14 か所の井戸及び水源から採取した水に含まれる硝酸性窒素を分析した結果、6～7 割が果樹園や畑にまかれた化学肥料である可能性が高いというものであった。

このため、平成 25 年から市の代表的な作物であるりんごにおいて窒素施肥量及び土壌診断による硝酸態窒素量を把握し、市環境課の水質調査と併せて推移を観察する。

### 2. 事業研究の内容

(1) 調査期間 平成 25 年～

(2) 調査方法

ア 生産記録集計

JA あづみから、りんご農家の生産記録の提示を受け、栽培面積・使用肥料を集計し、単位面積当たりの平均窒素施用量を把握する（表 1）。

イ 土壌診断データ収集

JA あづみから平均された土壌診断データ（りんご）を提供してもらい、1 年ごとの推移を観察する（図 1）。

ウ 果樹施肥基準表より窒素成分量の把握

りんごの施肥基準をもとに、10a あたりの窒素成分量を算出し推移をみる（表 1- 右列）。

### 3. 結果の概要及び考察

平成 30 年度の JA あづみの施肥基準見直しで、新しい化栽培の春肥に追肥グリーンが追加された。また、今回の見直しで基肥が一新されたことにより、JA あづみ施肥基準の窒素成分量は 22kg/10a となった。施肥基準による窒素成分量は、平成 5 年の 26.2kg/10a のピーク時と比較して 10a あたり約 4.2kg 減少している。

表 1 の平成 27 年度から令和 6 年度のりんご生産記録の集計結果から、どの年度も窒素施用量の最高値は 10a あたり 30 kg を超えるものの、平均的には JA あづみ施肥基準の窒素成分量を下回る結果となった。

図 1 は、JA あづみ管内において平成 27 年度から令和 6 年度に実施された土壌診断における硝酸態窒素の推移を示したものである。令和 6 年度のりんご圃場における硝酸態窒素量は昨年度と比較すると増加した。作物に対する土壌中の硝酸態窒素の最適量は一般に 5 mg /100g 前後とされているため、りんご圃場の硝酸態窒素は適正な範囲内であることがわかる。

図 2 の地下水の硝酸態窒素の推移は、平成 27 年 9 月のデータを除いて、基準値である 10mg/L を超える値はなかった。

### 4. 成果の活用と今後の方向性

安曇野市で推奨されている施肥基準による窒素成分量は、平成 5 年のピーク時と比較して 10a あたり約 4.2 kg 減少しており、生産記録のデータが示すりんご生産圃場における平均窒素施用量は施肥基準を下回っていることから、今後地下水中の果樹肥料に由来する硝酸態窒素は減少していくことが期待される。

土壌診断における硝酸態窒素の結果も適正な範囲内であり、市環境課の水質調査においてもわずか

に基準を上回る年はみられたものの概ね基準値内で推移していることから、現状、地下水中の硝酸態窒素量は問題ないといえる。雨水は数年～数十年かけて地下へ浸透していくため、調査も長期にわたり継続し、データの蓄積を図る必要があるため、今後も市環境課の水質調査と併せてデータ収集を継続していく。

表1 生産記録に基づく安曇野市の単位面積当たりの窒素施用量

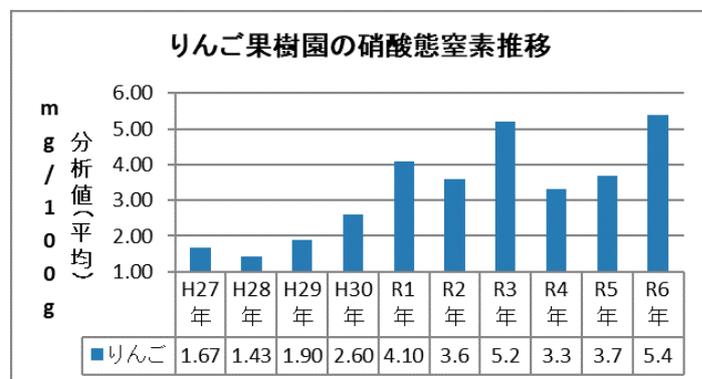
| 年度   | 果樹名 | データ数    | 平均窒素施用量<br>[kg/10a] | 最高値<br>[kg/10a] | 最低値<br>[kg/10a] | J A あづみ施肥基準<br>[kg/10a] |
|------|-----|---------|---------------------|-----------------|-----------------|-------------------------|
| H 27 | りんご | 102(13) | 15.4(12.4)          | 30.9(28.8)      | 0.32(4.8)       | 15.8                    |
| H 28 | りんご | 90(11)  | 15.15(12.04)        | 31.6(26.1)      | 0.32(5.8)       | 15.8                    |
| H 29 | りんご | 91(21)  | 14.57(9.93)         | 31.5(24.2)      | 0.32(2.23)      | 15.8                    |
| H 30 | りんご | 83(16)  | 15.34(12.83)        | 30.3(22.2)      | 0.32(3.2)       | 20                      |
| R 1  | りんご | 84(9)   | 15.64(10.61)        | 30.6(12.8)      | 1.9(4.8)        | 20                      |
| R 2  | りんご | 79(6)   | 15.8(11.94)         | 31.2(23.4)      | 1.9(6.7)        | 20                      |
| R 3  | りんご | 81(9)   | 16.45(14.02)        | 30.8(25.4)      | 0.76(0.76)      | 20                      |
| R 4  | りんご | 148(5)  | 8.74(17.11)         | 30.7(25.4)      | 0.12(6.75)      | 19.6                    |
| R 5  | りんご | 140(4)  | 8.14(13.76)         | 34.1(25.4)      | 0.07(5.89)      | 22                      |
| R 6  | りんご | 121(5)  | 8.42(10.16)         | 31.7(14.2)      | 0.17(7.27)      | 22                      |

※ ( ) 内は圃場面積 10 ± 2a のデータ及び 10a あたりの表記のあるデータに基づく値。

※施肥管理・圃場面積が記載されていないデータは除外した。

※窒素施肥量が JA あづみの施肥基準の 2 倍 (44kg/10a) を上回るデータは異常値として除外した。

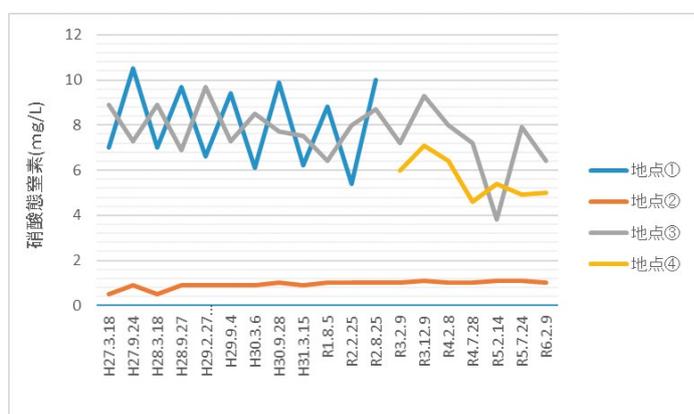
図1 JA あづみ管内 りんご圃場の硝酸態窒素の推移



※直近 10 年間のもの。

※年度ごとにりんごの生産者が任意で実施した土壌診断の結果のみを収集し平均化したもので、梓川地域を含む。

図2 三郷温地区井戸水硝酸態窒素検査結果 (環境課実施)



※直近 10 年間のもの。

※R 3 年 2 月 9 日からの調査は地点①が  
 汲水のため、採水ができなかったため、  
 代替井戸地点④で検査を実施している。

## 5 環境にやさしい害虫防除調査事業

### 要約

夏秋いちご栽培において問題となっている害虫「ヒラズハナアザミウマ」について、天敵製剤である「スワルスキーカブリダニ」と耕種的防除法を組み合わせた防除体系の効果試験を行った。花に寄生するアザミウマの虫数と各試験区の収量を抜き出したところ、本試験では「スワルバンカーロング」及び「アカメ」、青色粘着ホリバーを組み合わせた区が最も有効と考えられた。粘着シートへの誘殺数などから次年度以降の効果を断言できないため、今回の結果も考慮しつつ引き続きアザミウマ防除試験を行う。

担当者：JA あづみ営農経済事業部農産課 増田

### 1. 課題設定の背景と目的

安曇野市を中心に栽培が盛んな夏秋いちごにおいて、近年はアザミウマによる被害が増加している。中でもヒラズハナアザミウマは、花に成虫及び幼虫が多数寄生すると花床を食害し花粉が黒褐色に変色する。果実が肥大しても食害により果皮が茶褐色に変色し商品価値が大きく低下する。殺虫剤散布にて対策をしているものの、感受性の低下により年々防除が困難になっている。そこで、殺虫剤以外の有効な防除法の検討のため、ヒラズハナアザミウマに効果があるとされる天敵製剤やその他の資材等を組み合わせた防除法により夏秋いちごハウス内のヒラズハナアザミウマの発生を低減できないか試験を行った。

### 2. 調査研究の内容

- (1) 試験生産者数：1 件
- (2) 調査期間：令和 6 年 4 月中旬～9 月中旬 ※9 月以降は気候が冷涼となったため調査を中止
- (3) 試験場所：安曇野市堀金
- (4) 使用資材：「UV-B 電球形蛍光灯」「アグリボールレッド（赤色 LED）」「アグリインセクト（赤色 LED）」「虫バリア（忌避剤織り込み防虫ネット）」「スリムホワイト 45（光反射シート織り込み防虫ネット）」「高性能粘着トラップホリバー（青色）」「スワルバンカーロング（スワルスキーカブリダニ剤＋天敵保護装置「バンカーシート」）」「アカメ（アカメガシワクダアザミウマ製剤）」
- (5) 調査研究方法等

#### ア 試験区設定 表 1 参照

| 区    | 使用した資材 |       |       |        |        |     |
|------|--------|-------|-------|--------|--------|-----|
|      | UV-B   | 赤色LED | 防虫ネット | 青色ホリバー | スワルスキー | アカメ |
| 試験区1 | ○      | ○     | ○     | —      | ○      | ○   |
| 試験区2 | —      | —     | —     | —      | ○      | —   |
| 試験区3 | —      | ○     | —     | —      | ○      | ○   |
| 試験区4 | —      | —     | —     | ○      | ○      | —   |
| 試験区5 | —      | —     | —     | —      | ○      | ○   |
| 試験区6 | —      | —     | —     | —      | ○      | ○   |
| 試験区7 | —      | —     | ○     | —      | ○      | ○   |
| 対照区  | —      | —     | —     | —      | —      | —   |

※必要により、アザミウマ防除の為天敵に影響の少ない殺虫剤の散布を行った。  
※各区の面積等：試験区(6.0m×30m×4ベンチ, 800株)・対照区(7.2m×33m×5ベンチ, 800株)

#### イ 調査方法、項目

##### ア アザミウマの寄生虫数と天敵の虫数

各区 40 花ずつ、寄生するアザミウマの虫数及び生存する天敵の虫数を調べた。調査はおおむね月 1 回行った。

##### イ 収量調査 各区、日ごとに可販収量と規格外果実の量を調査した。

### 3. 結果の概要及び考察

表2 1花あたりのアザミウマ寄生虫数と天敵虫数

| 試験区   | 6月13日 |      |             |        | 8月16日 |       |      |              |      |
|-------|-------|------|-------------|--------|-------|-------|------|--------------|------|
|       | アザミウマ |      |             | スワルスキー | アザミウマ |       |      | スワルスキー       |      |
|       | 成虫    | 幼虫   | 計           | カブリダニ  | 成虫    | 幼虫    | 計    | カブリダニ        |      |
| 試験区1  | 0.40  | 0.00 | 0.40        | 0.30   | 試験区1  | 13.58 | 5.18 | 18.76        | 0.00 |
| 試験区2  | 1.48  | 0.05 | 1.53        | 0.45   | 試験区2  | 9.25  | 4.08 | 13.33        | 0.00 |
| 試験区3  | 0.80  | 0.10 | 0.90        | 0.43   | 試験区3  | 8.35  | 4.55 | <b>12.90</b> | 0.00 |
| 試験区4  | 0.33  | 0.00 | <b>0.33</b> | 0.15   | 試験区4  | 12.73 | 4.48 | 17.21        | 0.00 |
| 試験区5  | 0.55  | 0.00 | 0.55        | 0.45   | 試験区5  | 10.70 | 5.85 | 16.55        | 0.00 |
| 試験区6  | 0.55  | 0.03 | 0.58        | 0.70   | 試験区6  | 9.98  | 5.60 | 15.58        | 0.00 |
| 試験区7  | 0.48  | 0.00 | 0.48        | 0.30   | 試験区7  | 10.25 | 5.80 | 16.05        | 0.00 |
| 対照区   | 0.75  | 0.00 | 0.75        | 0.00   | 対照区   | 17.05 | 6.33 | 23.38        | 0.00 |
| 6月27日 |       |      |             |        | 9月5日  |       |      |              |      |
| 試験区1  | 2.55  | 0.28 | 2.83        | 0.00   | 試験区1  | 12.23 | 1.45 | 13.68        | 0.00 |
| 試験区2  | 4.38  | 0.40 | 4.78        | 0.03   | 試験区2  | 12.45 | 2.88 | 15.33        | 0.00 |
| 試験区3  | 4.25  | 0.15 | 4.40        | 0.00   | 試験区3  | 12.15 | 3.30 | 15.45        | 0.00 |
| 試験区4  | 1.00  | 0.08 | <b>1.08</b> | 0.00   | 試験区4  | 13.35 | 4.03 | 17.38        | 0.00 |
| 試験区5  | 2.90  | 0.35 | 3.25        | 0.00   | 試験区5  | 10.58 | 4.03 | 14.60        | 0.00 |
| 試験区6  | 2.85  | 0.13 | 2.98        | 0.00   | 試験区6  | 9.10  | 4.20 | <b>13.30</b> | 0.00 |
| 試験区7  | 1.63  | 0.00 | 1.63        | 0.00   | 試験区7  | 11.98 | 3.60 | 15.58        | 0.00 |
| 対照区   | 1.08  | 0.18 | 1.25        | 0.00   | 対照区   | 11.53 | 3.00 | 14.53        | 0.00 |
| 7月25日 |       |      |             |        |       |       |      |              |      |
| 試験区1  | 9.80  | 3.50 | 13.30       | 0.00   |       |       |      |              |      |
| 試験区2  | 11.30 | 5.10 | 16.40       | 0.00   |       |       |      |              |      |
| 試験区3  | 12.80 | 6.80 | 19.60       | 0.00   |       |       |      |              |      |
| 試験区4  | 6.80  | 2.00 | 8.80        | 0.10   |       |       |      |              |      |
| 試験区5  | 4.70  | 0.50 | <b>5.20</b> | 0.10   |       |       |      |              |      |
| 試験区6  | 7.90  | 4.00 | 11.90       | 0.10   |       |       |      |              |      |
| 試験区7  | 5.50  | 3.00 | 8.50        | 0.00   |       |       |      |              |      |
| 対照区   | 5.80  | 1.00 | 6.80        | 0.00   |       |       |      |              |      |

表3-1 各区可販収量割合

| 区/月  | 6月         | 7月         | 8月         | 9月         |
|------|------------|------------|------------|------------|
| 試験区1 | 13%        | <b>14%</b> | 10%        | 10%        |
| 試験区2 | 10%        | 11%        | 11%        | 15%        |
| 試験区3 | 8%         | 10%        | 11%        | <b>19%</b> |
| 試験区4 | 5%         | <b>14%</b> | <b>16%</b> | 14%        |
| 試験区5 | 12%        | 13%        | 12%        | 11%        |
| 試験区6 | 12%        | 13%        | <b>16%</b> | 12%        |
| 試験区7 | 14%        | 12%        | <b>16%</b> | 9%         |
| 対照区  | <b>26%</b> | <b>14%</b> | 8%         | 10%        |

※計算式：各区総収量÷全体収量

表3-2 各区規格外割合

| 区/月  | 6月        | 7月         | 8月         | 9月        |
|------|-----------|------------|------------|-----------|
| 試験区1 | 0%        | <b>12%</b> | 17%        | 4%        |
| 試験区2 | 1%        | 11%        | 14%        | 3%        |
| 試験区3 | <b>2%</b> | <b>12%</b> | 8%         | 3%        |
| 試験区4 | 0%        | 6%         | 10%        | 3%        |
| 試験区5 | 0%        | 7%         | 16%        | 3%        |
| 試験区6 | 0%        | 6%         | 12%        | <b>9%</b> |
| 試験区7 | 0%        | 7%         | 13%        | <b>9%</b> |
| 対照区  | 1%        | <b>12%</b> | <b>39%</b> | 5%        |

※計算式：各区規格外収量÷各区総収量

各区における1花当たりのアザミウマの寄生虫数は6月13日の調査時点では1頭前後であったが、その後増加し、7月25日の調査では試験区1～3と試験区6で10頭を超えた。8月16日の調査ではすべての区で12頭以上となり、9月5日の調査では前回より更に増えた。収穫期前半のピークを越えた7月25日の調査では、1花当たりのアザミウマの寄生は試験区4で8.8頭、試験区5で5.2頭と他の区に比べアザミウマの寄生虫数は少なかった。また、中休みを終えた8月16日の調査では試験区3が、9月5日では試験区6が最もアザミウマの寄生虫数が少なかった(表2)。

天敵であるスワルスキーカブリダニは「スワルバンカー」の設置直後は、花でも確認ができたが8月16日の調査から確認が出来なくなった(表2)。

可販収量について、試験区4では7月と8月の可販収量の割合が他の区に比べ高かった(表3-1)。

---

また、規格外果実の割合は他の区に比べ試験区 2 と試験区 4～5 が、調査期間を通じて低かった（表 3-2）。

以上の結果から、本試験では 7 月下旬までアザミウマの寄生虫数が他の区に比べ少なく、収量割合で可販収量が比較的高く、規格外収量が小さかった試験区 4 と 5 が、アザミウマの発生を抑制する効果が高かったと考えられた。

今回の試験により天敵製剤や粘着トラップなど複数の方法の組み合わせによりアザミウマの発生をある程度抑えられる可能性が示された。今後、実用的な手法の確立に向けて引き続き検討が必要と考える。

#### 4. 成果の活用と今後の方向性

青色ホリバーとスワルバンカーを中心とした試験設計を行う予定であるが、試験終了後の青色ホリバーへの害虫の付着数からは、2つの資材で次年度も十分な効果が発揮できるか断言することができないことや、現在他所にて冬いちごで試験している結果がまだ出ていないことから来年の 2 月に試験内容の再検討を行う方向性となった。

## 6 花きの病害虫防除及び品質向上事業（オーニソガラム病害虫対策）

### 要約

安曇野市の特産品であるオーニソガラムは、生育期における腐敗性病害が問題になっており、降雨の多い年に発生が多く、田んぼの輪作体系に組み込まれていることから湿害による影響が大きいと考えられた。そこで、高畝栽培の試験区を設置して軟腐病の発生率を調査したところ、畝高 15～18 cm の高畝区は、畝高 5～7 cm の慣行区に比べて軟腐病の発生率が低くなった。以上のことから、高畝栽培は、軟腐病の発生率を抑制すると考えられた。

担当者：JAあづみ営農経済事業部農産課 小山 松本農業農村支援センター 戸沢、三宅、小林瑞

### 1. 課題設定の背景と目的

昨年度の調査から、球根越冬時の管理方法は改善されたが、生育期間中の腐敗性病害の発生が課題として残された。特に、降雨の多い年に腐敗性病害の発生が多く、5年に1回田んぼに戻す輪作を行っていることから、湿害による影響が大きいと考えられた。そこで、高畝栽培の試験区を設置して腐敗性病害に対する効果を確認した。

### 2. 調査研究の内容

- (1) 実施時期 令和6年4月～9月
- (2) 実施地区 安曇野市豊科 標高：540 m
- (3) 試験区 高畝区：畝高 15～18 cm、慣行区：畝高 5～7 cm、1区 16.5 m<sup>2</sup> (1.1 m×15 m)、  
反復無し
- (4) 供試品種 オーニソガラム 「サンデルシー」
- (5) 耕種概況 定植：5月22日、株間 15 cm、15 cm×15 cm 8条植え、切花：8月2日～8月下旬  
基肥：くみあい粒状固形肥料 35号 (10-15-10)、くみあいアズミン苦土石灰
- (6) 調査研究方法  
ア 軟腐病発生率：定植2か月後及び3か月後に軟腐病の発生株数を調査して発生率を求めた。  
イ 生育調査：収穫開初期の8月8日に草丈及び茎径を調査した。
- (7) 調査依頼先 JAあづみ オーニソガラム生産者1戸
- (8) 協力機関 JAあづみ（生産者との調整、調査協力、調査結果の周知）、専門技術員（試験設計、  
調査方法の助言）野菜花き試験場（病害虫診断依頼）

### 3. 結果の概要及び考察

#### (1) 高畝処理が軟腐病の発生率に与える影響

定植2か月後に腐敗性病害の症状を確認したところ、症状から主に軟腐病であることが明らかになった。定植2か月後及び3か月後に軟腐病の発生率を調査すると、いずれの時期においても発生率は高畝区の方が慣行区よりも低くなった（表1）。このことから、軟腐病の発生率は、生育期間中に増加していくが、高畝栽培を行うことで発生率が抑えられることが示唆された。

定植3か月後の軟腐病の圃場内発生分布を見てみると、慣行区の西側で軟腐病の発生率が高かった（図2）。これは、西から東に圃場が低くなっているために東端に水が集まり、軟腐病が発生しやすくなったと考えられる（図1）。同様に、慣行区北側の外側の列に軟腐病の発生が多く、畝の勾配を確認すると南から北に向かって勾配が低くなっていた。

以上のことから、土地の低い場所に水が溜まったことにより軟腐病が発生しやすくなり、高畝にすることで排水が改善されて軟腐病の発生率が低くなったと考えられる。

#### (2) 高畝処理が出荷時の品質に与える影響

切花初期に切花品質を調査すると慣行区と高畝区で草丈、茎径ともに差が見られなかった（表2）。これは、切花初期の1日だけの調査であり、両区の生育の良い株が早くに開花し、軟腐病の発生で生育の遅れた株などが調査に含まれていない可能性がある。区全体の切花品質を調査すれば、結果は異なったかもしれない。

### (3) 花焼けの発生

5月22日定植の作型は、8月中下旬に収穫期を迎え、生育期間中に高温で推移した令和6年はガク焼け及び花焼けが多発した。一方で、4月5日及び6月29日定植の作型では、8月8日の時点でガク焼けが発生していなかったことから、5月22日定植の作型では、遮光資材などの高温対策が必要になると考えられる。なお、ガク焼け及び花焼けの発生率は、高畝区と慣行区で差が見られなかった(達観調査)。

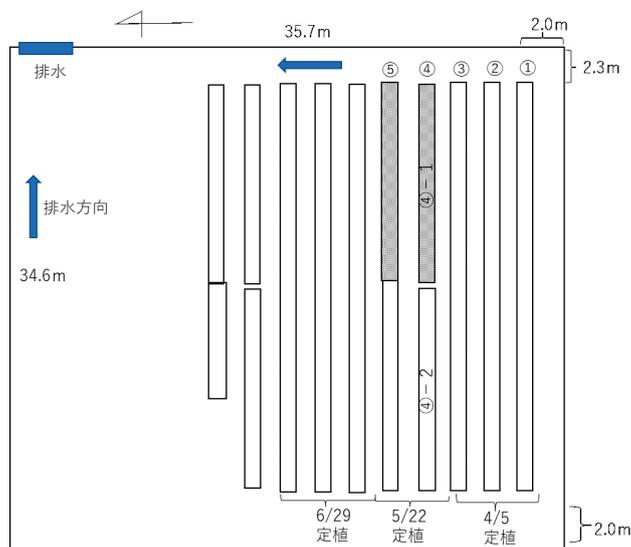
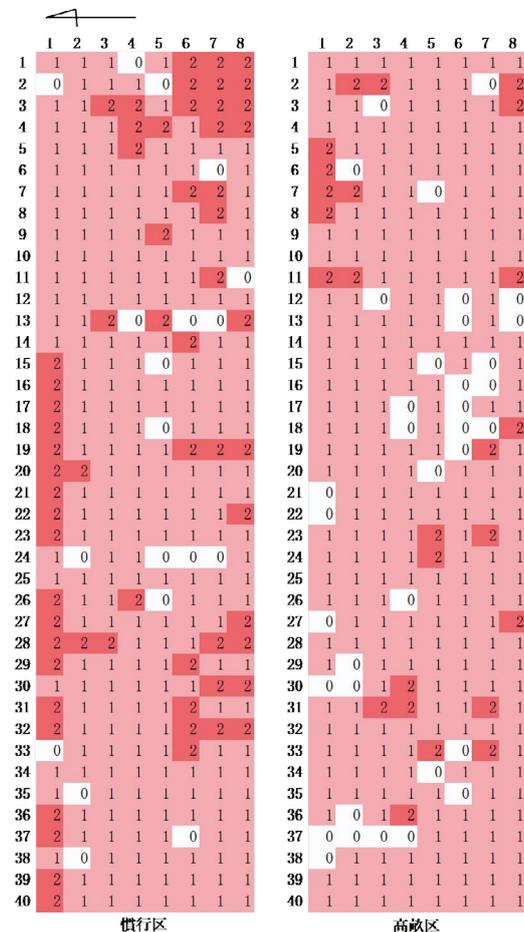


図1 圃場図

- ①～③ 4月5日定植 慣行
- ④-1 5月22日定植 高畝区(試験区)
- ④-2 5月22日定植 慣行
- ⑤ 5月22日定植 慣行(対照区)



0: 欠株、1: 発生なし、2: 発生あり

図2 軟腐病の試験区内における発生分布

表1 高畝処理が軟腐病に与える影響

|     | 軟腐病発生率(%)    |            |
|-----|--------------|------------|
|     | 定植2ヶ月後(7/22) | 3ヶ月後(8/21) |
| 高畝区 | 1.7          | 8.8        |
| 慣行区 | 9.9          | 20.9       |

(n=320)

表2 出荷開始時の生育調査(調査日: 8月8日)

|     | 草丈(cm)     | 茎径(mm)*1  |
|-----|------------|-----------|
| 高畝区 | 115 ± 10.3 | 7.8 ± 0.9 |
| 慣行区 | 115 ± 10.7 | 7.8 ± 1.1 |

\*1: 花蕾上部から25cm下の茎径 (n=46)

## 4. 成果の活用と今後の方向性

例年の異常気象が通常になると考えられ、今まで以上に高温になる日が多くなる事が予想される。またゲリラ豪雨などの発生も増える可能性もある。軟腐病は湿害に大きく左右されるため、排水対策が重要となる。本試験を参考に高畝栽培を行う事で問題となっている軟腐病の発生が抑えられる事が実証された。ガク焼け及び、花焼けについては、5月中下旬の定植では出荷時期が高温期にあたり多発する事から、5月中下旬の定植を外した作型が好ましい。

市場要望がある秋出荷に向けた作型では、6月中旬～下旬の定植を行い、高温期の出荷時期を避ける事で改善が期待できる。オーニソガラムの栽培生産者に試験成績書を配布、情報提供を行い、オーニソガラムの安定生産につなげていく。

## 7 安曇野牛ブランド化推進事業

### 要約

本年度 13 回目となる共励会は、11 月 6 日に年末商戦に絡む需要が動き出す時期を狙って安曇野産牛肉及び信州プレミアム牛肉を P R した。

また共励会の開催会場である大阪市食肉市場において、枝肉の評価や牛肉情勢等について研修を行った。

表彰式は 11 月 27 日に安曇野市役所で開催した。

担当者：安曇野市農政課 西澤

協力機関：JA 中信畜産酪農営農センター 須澤

### 1. 事業設定の背景と目的

信州安曇野市内の肥育牛生産者の技術研鑽と産地に於いての共販体制を強化し牛肉流通体系の充実を図り、併せて「信州安曇野牛」の品質向上に資することを目的とする。また、長野県認証制度『信州プレミアム牛肉』の普及拡大と、信州肉牛の一層の銘柄向上を図る。

### 2. 事業の概要

#### (1) 実施日

令和 6 年 11 月 6 日（水）※表彰式は令和 6 年 11 月 27 日（水）

#### (2) 出品者

安曇野市内の肥育牛生産農家等 4 戸（黒毛和種 6 頭、乳用種 3 頭 計 9 頭）

#### (3) 実施内容

ア 出荷適齢を迎えた肉牛を市内農家へ出品要請

イ 枝肉購買者へ粗品（安曇野物産セット）を謝意として進呈

ウ 他県産地との品質比較と枝肉購買者ニーズの把握

#### (4) 協力機関

（公社）日本食肉格付協会、大阪市食肉市場（株）、全農ミートフーズ（株）、JA 全農長野、JA 長野県・信州肉牛生産販売協議会、安曇野市

#### (5) 視察研修

市場にて枝肉のセリを視察後、市場担当者・購買者と情勢および購買者ニーズ等について研修を行った。

### 3. 結果の概要及び考察

（共励会）

| 褒賞   | 出品者       | 種別（性）  | 格付け |
|------|-----------|--------|-----|
| 最優秀賞 | 株式会社 降簾物産 | 黒毛和種去勢 | A 5 |
| 優秀賞  | 伊藤 雅敏     | 乳用牛去勢  | C 2 |
| 優良賞  | 太田 和男     | 黒毛和種雌  | A 5 |

審査は、日本食肉格付協会が定める審査基準に基づき、審査員二人より品質評価（格付）を受けた。

近年は赤肉志向と言われているが、それでも 5 等級は他の等級に比べて値崩れは小さい。また、黒毛和種だけでなく交雑種や乳用種なども安定的に出荷されると購買者も買いやすくなる。キメの粗いサシより細かいサシが好まれるが、購買者はサシの多さだけでなく枝肉全体のバランスを見ている。

各部位の構成比・歩留りが良い肉ほど単価が良く、販売単価が高価なロースの構成比が高い肉や、重量のあるモモにサシの入っている枝肉は購買者も利益が出るため評価が高いが、逆に枝肉重量が大きくても、ロースの面積が小さいものや、モモ抜けや皮下脂肪が厚く歩留まりが悪いと評価が下がるため、同じ等級でも価格差が発生している。

物価高による生活防衛意識の高まりのため、相場は産地を問わず弱く推移しているが、信州産牛肉は肉のキメおよび質等で高い評価を得ている。

(表彰式：安曇野市役所)

表彰式は安曇野市役所本庁舎で開催した。

市内の生産者が育てた9頭の枝肉が共励会へ出品され、サシ・色合い・キメの細かさ等を審査した結果、BMSが10、枝重が約550kgでロース芯が72cm、バラ厚9.4cm、また数字での表示はないが、周囲筋と呼ばれるフケ・カブリ部分とのバランスが良い枝肉と評価された株式会社降旗物産が最優秀賞を受賞した。

また、優秀賞を受賞した伊藤雅敏氏の出品した乳用牛去勢は近年去勢肥育も枝重やBMSの面で成績が振るわないことが増え、肉色も濃いものが増えてきているが、BCS4と肉食が濃くなく、市場関係者の評価も高かった。太田和男氏の出品した和牛雌は、スネ部分に擦れがあったものの、BMS11と高く、枝重が約400kgでロース芯が69cmと大きく優良賞を受賞した。



(写真：優良賞 太田和男氏)

#### 4. 成果の活用と今後の方向性

近年、飼料価格の高騰や生活防衛意識の高まりによる不安定化する枝肉相場という非常に厳しい状況下ではあったが、共励会・表彰式を実施することにより、生産者の更なる肥育技術、品質向上につながるよう意欲の向上に寄与することができた。共励会を通して品質の向上及びブランド力の強化のほか、ニーズに合わせた枝肉の生産に努め、価格の向上を目指していく。

## 8 畜産悪臭低減事業

### 要約

安曇野市三郷地域では以前から畜産悪臭が問題となっている。その解決策として、他の農場でも畜産悪臭低減の効果があつたと報告されているバイオ酵素の畜舎への散布、家畜への飲水や飼料添加を行い、それがどの程度畜産悪臭の低減につながるのかを検証した。また、バイオ酵素を使用して製造された堆肥は臭いが少なく良質な堆肥となると報告されているため、堆肥の成分についても検証を行った。

担当者：安曇野市農政課 西澤

協力機関：株式会社 フォーレスト

### 1. 事業設定の背景と目的

安曇野市三郷地域では、以前から畜舎悪臭が問題となっている。平成24年に三郷地域畜産悪臭対策協議会を設置し、地域住民、畜産業者、安曇野市で畜産悪臭解決のために会議を行っており、以前より畜産臭気や苦情件数は減少傾向にあるが、未だに解決はしていない。新たな畜産悪臭対策として、他の農場でも効果があつたと報告されているバイオ酵素の散布、家畜への飲水、飼料添加を行いそれがどの程度畜産悪臭の低減につながるのかを検証を行った。また、バイオ酵素を使用して製造された堆肥は臭いが少なく良質な堆肥となると報告されているため、堆肥の成分についても検証を行った。

### 2. 事業の概要

#### (1) 検証期間

令和6年5月～令和7年1月

#### (2) 検証地区

安曇野市三郷地域の畜産業者3件（酪農、肉用牛（肥育）、養豚）

#### (3) 検証方法

畜産業者の農場で週1回のバイオ酵素の散布、毎日バイオ酵素の飲水、飼料添加を行い、臭気指数、アンモニアと硫化水素の値がどのように変化したか検証を行う。

※肉用牛については散布のみ実施。

堆肥の成分は、バイオ酵素使用前と使用後の堆肥内の微生物の多様性、活性値の分析をし、堆肥の生物性の評価を行う。

#### (4) 協力機関

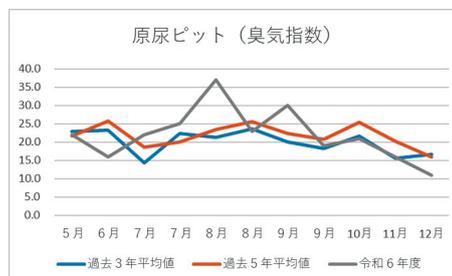
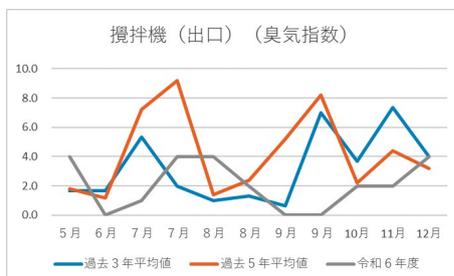
株式会社 フォーレスト

### 3. 結果の概要及び考察

#### 酪農

悪臭発生の原因だと考えられる、以下の施設の前で臭気、アンモニアと硫化水素の値を測定し、バイオ酵素散布前後の数値を比較した。

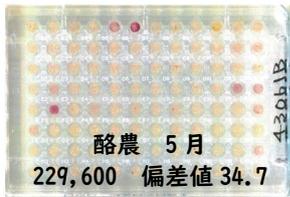
①原尿ピット ②ピット ③堆肥攪拌ライン（入口） ④堆肥攪拌ライン（出口） ⑤浄化槽



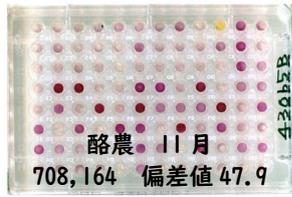
堆肥攪拌機（出口）では臭気指数は安定した一方、雨水流入に伴う堆肥処理の遅れにより原尿ピット数値は上昇した。

堆肥攪拌ラインでできた堆肥の微生物多様性・活性値分析の比較を実施した。

土壌微生物多様性・活性値【簡易】:229,600 (偏差値:34.7)



土壌微生物多様性・活性値【簡易】:708,164 (偏差値:47.9)

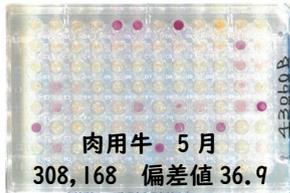


(株) DGC による微生物の多様性・活性値分析は、培地に異なる栄養を含み、その栄養を好む微生物が存在すると分解が進み紫色に変色し、活性が高いと紫の色が強く出る。有用微生物ほど高い数値を示すことが分かっている。今回大きく数値が向上した。

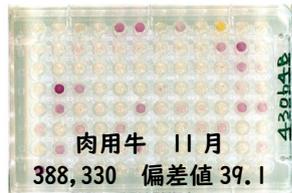
#### 肉用牛（肥育）

堆肥仮置き場でできた堆肥の微生物多様性・活性値分析の比較を実施した。

土壌微生物多様性・活性値【簡易】:308,168 (偏差値:36.9)



土壌微生物多様性・活性値【簡易】:388,330 (偏差値:39.1)

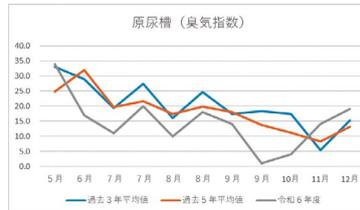
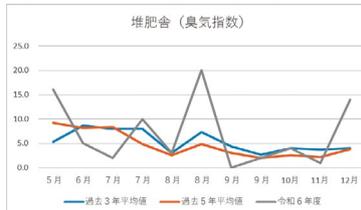


堆肥の仮置き場的な意味合いもあり、堆肥の切り返しや、プロワーによる送風はほとんど出来ていない。そのため、数値は向上したものの、満足の行く結果では無かった。

#### 養豚

悪臭発生の原因だと考えられる、以下の施設の前で臭気指数、アンモニアと硫化水素の値を測定し、バイオ酵素散布前後の数値を比較した。

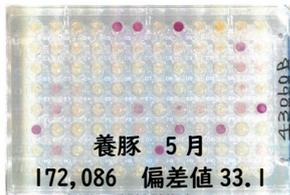
- ①原尿槽 ②固液分離機 ③堆肥舎



固液分離機の不具合による水分過多により、8月の堆肥舎では臭気指数が上昇した。原尿槽は低下傾向が見られ生糞尿の腐敗抑制は図れたと考える。

堆肥舎でできた堆肥の微生物多様性・活性値分析の比較を実施。

土壌微生物多様性・活性値【簡易】:172,086 (偏差値:33.1)



土壌微生物多様性・活性値【簡易】:302,969 (偏差値:36.7)



固液分離機の不具合により、堆肥の十分な水分調整が出来ず嫌気的になってしまった。そのため、数値は向上したものの、満足の行く結果ではなかった。

## 4. 成果の活用と今後の方向性

酪農では堆肥舎出口での微生物の多様性と活性値が上昇し、臭気指数の結果を見ても過去3年・5年と比較した数値で結果が残せた。一方で大雨による畜舎内への雨水侵入に伴う、牛糞処理の遅れによる臭気発生なども課題として残った。今後はハード面の安定を図りながら、堆肥舎で仕上がった堆肥が、牛舎の敷料に再利用されることで牛舎全体の微生物の多様性と活性値を上昇させ、敷地内全体の腐敗性微生物の抑制と同時に悪臭の低減を図りたい。

肉用牛では微生物の多様性と活性値が多少の上昇に留まったが、元々堆肥の仮置き場的な意味合いもあり、臭気指数の評価は無いながらも試験期間中は牛舎や堆肥場の臭気は低く安定していた。事前に米ぬかやオカラを含む敷料に酵素散布して地場有用微生物を育成し、それを牛舎に散布することで作業性と機能性の効果を高められたことも起因していると考えられる。継続して実施することでより一層の臭気の安定を図っていききたい。

養豚では微生物の多様性と活性値が多少上昇したものの、8月の固液分離機の故障に伴い、浄化槽や堆肥発酵状況の悪化が見られ、十分な結果とは言えないものであった。一方で原尿槽での臭気指数は過去3年・5年と比較して低下したことより、生糞尿の腐敗抑制が図れてきている可能性もある。今後は設備の改善を図り、ハードが安定した状態で、酵素により地場有用微生物を農場や堆肥舎全体に定着させる努力を継続していききたい。

悪臭の抑制は畜舎内に有用微生物が増え、場内の腐敗抑制がなされている証左でも有り、結果排出される堆肥もより完熟したものとなる。今後畜産の悪臭低減による地域環境の改善を図ることは勿論の事、耕畜連携、地域循環型農業も含め取り組んでいきたい。

# MEMO

A memo page with a dashed line border and horizontal dashed lines for writing. The page is otherwise blank.



# 農村集落支援事業

## 要 約

女性農業者の学習機会及び農業者同士のつながりの創出を目的とした「美味しい安曇野」体験講座を実施。3回目となる本年度は、ほ場での農業講習会及び農産物収穫体験、その後、レストランにて安曇野産農産物等を使った料理を楽しみながら交流会を開いた。

担当者：安曇野市農政課 平野

## 1. 事業設定の背景と目的

市内で農業をする仲間同士のコミュニティ、アイデアを生む仕掛け作りをするとともに、自分の育てている作物だけでなく、「安曇野産農産物」を好きになり、広く発信・集客できることを増やすため本事業を計画した。

## 2. 事業の内容

(1)実施日：令和6年11月8日(金)

(2)場 所：のぐちファーム(穂高)及びRosso Bianco(穂高)

(3)参加者：女性農業者または農業に関心のある女性5名

(4)内 容

ア フィールドワーク 収穫体験(写真①)

農業設備の見学とにんじんの収穫体験を行った。

イ ランチ交流会(写真②、③)

シェフ目線で農家とのつながり、安曇野産農産物を通じた店のブランディングの考えを伺った。料理を囲みながら参加者間の交流を図った。



写真① ほ場での  
にんじん収穫体験



写真②、③  
ランチ交流会の料理の一部



## 3. 結果の概要及び考察

(1)ほ場での収穫体験では「土作りはどのようにしているか?」「畝を作らずに野菜を作っているのは面白い!」といった質問や感想があった。

(2)ブランディングの考えについて勉強になったとの声が多く聞かれた。チラシ作りや SNSの運営といった情報発信の方法について話が広がり、貴重な情報交換の場となった。

## 4. 成果の活用と今後の方向性

今回は女性農業者以外に農業に関心がある女性まで募集範囲を広げての事業開催とした。農業に関心がある参加者からは、ほ場訪問は新鮮で良い経験になったとの感想を得た。

農業者の参加者からは、写真講座や POP 作りといった実践的な講座があると良いとの声が多かった。これらの声を参考に、今後も女性農業者のつながりの創出の一助となるよう講座の開催を検討していきたい。

# MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing, contained within a rounded rectangular border.



**農産物販売促進事業**

## 10-1 安曇野農産物 PR 事業(安曇野生まれの新品種夏秋いちご PR)

### 要 約

市内農家が育成した安曇野生まれの新品種の夏秋いちごの名称募集をすることで、安曇野を夏秋いちごの産地として広くPRした。また、名称が「あまあづみ」に決定後は、県外のイベント等で販売し、新品種のPRをはかった。

担当者：安曇野市農政課 鈴木

### 1. 事業設定の背景と目的

安曇野市は、夏の冷涼な気候を生かし、「夏秋いちご」の本州有数の産地となっている。

この度、安曇野市堀金の夏秋いちご農家の堀井勇司さんが、約8年の年月を経て新品種を育成。堀井さんから農政課に、「本市の新たなブランド品目として市民をはじめ、広く愛されるいちごとしたい」と申し出を受け、市やJAあづみ等農業関係団体で組織する本協議会主催で名称案を募集した。

### 2. 事業の概要

#### (1) 名称募集

ア 募集期間：令和6年4月15日（月）から5月15日（水）

イ 名称案条件：安曇野生まれの新品種ということがわかるよう「安曇野らしい」名称

※募集要項は、安曇野の新品種の夏秋いちご名称選考委員会（令和6年2月14日設置要綱施行）で決定

ウ 応募概要：

(ア) 応募件数 1,255 件

(イ) 応募者の居住地 全国43都道府県からの応募

【内訳】安曇野市39.7% / その他長野県内18.2% / 県外42.1%

エ 選考結果：

(ア) 名 称 あまあづみ

(イ) 考 案 者 穂高西小4年生 原優真さん

(ウ) 選考理由

- ・名称に「あづみ」が入っていることから、安曇野を連想しやすい
- ・ひらがなでよみやすく親しみやすいこと
- ・また、今回の新品種の特徴である「あまみ」をPRできること



「あまあづみ」名称お披露目会の様子



PR ポスター

#### (2) 農産物PRイベント等での試食・販売

ア 事業名 首都圏マルシェ等での安曇野産農産物 PR

(ア) 事業概要 首都圏に安曇野市産農産物のファンを増やすことなどを目的とした事業の一環で、野菜ソムリエプロによるマルシェでの販売や、それに先立つ圃場視察を行った。

(イ) 開催日と場所 圃場視察 令和6年6月16日（日） 安曇野市内

イベント出店 令和6年7月11日（日） 市川卸売市場（千葉県）

- (ウ) 成果 視察では、野菜ソムリエプロに品種の食べ比べをしてもらい、プロ目線であまあづみの香りの高さや甘みの強さを評価いただくことができた。飲食店の方からは店舗で取り扱いたいという意向もあったが、生産に限られ、タイミングも合わなかったため、今回は見送られた。7月に市川市場で開催された「いちかわごちそうマルシェ」出店の際には、「新品種」ということで注目度も高く、即完売となった。
- (エ) その他 この事業以外にも安曇野市の事業として、首都圏や関西圏の農産物販売イベントで「あまあづみ」を販売した。



6月の視察の様子。飲食店経営者や野菜ソムリエが生産者の話を聞きながら品種を食べ比べ



7月の「いちかわごちそうマルシェ」では、販売だけでなく、野菜ソムリエによるセミナーを開催し、安曇野の夏秋いちごをPRした

### (3) 先進地視察

視察先のJAでは生産・出荷の状況を、また、新発田市役所では、ブランド化のための協議会や、取組みを聞くことができた。新発田市での取組みを参考にJAと農政課と生産者で話し合いを進めていくこととなった。

ア 実施日 令和7年1月20日(月)～21日(火)

イ 視察先 新発田市役所農政課、JA北新潟(新発田園芸センター)、新潟県農業総合研究所 園芸研究センター、JA新潟かがやき(農家圃場)

ウ 参加者：JAあづみ職員6名、市職員4名、品種開発者1名 計11名



JA北新潟では、果皮の柔らかい越後姫の輸送資材等の説明を受けた



県園芸センターでは、越後姫の県での普及の状況の説明を受けた



県内出荷メインのJA新潟かがやき(五泉市)では、生産者から話を聞いた

## 4. 成果の活用と今後の方向性

今年度は、主な生産者3名に各種イベントへの出店等協力いただいたが、需要に供給が間に合わないという状況があった。名称決定後、2シーズン目となる令和7年度の生産・販売・PRが重要となるため、視察先の取組みを参考に、あまあづみをPRするとともに、あまあづみをきっかけとして、『夏秋いちごの産地 安曇野』を生産者、JAあづみ、行政一体となり盛り立てていく。

## 10-2 安曇野農産物PR事業(みずん活動報告)

### 要 約

新たなみずんの着ぐるみ（2体目）とみずんシールを作成し、活動・PRの場を増やした。

また、安曇野市内のみならず、県外や海外にも出張し、みずんとともに安曇野の農産物の魅力を発信した。

担当者：安曇野市農政課 奥原（沙）

### 1. 事業設定の背景と目的

安曇野市の農産物を応援するキャラクターとして活躍する「みずん」だが県外、海外への出張や、長年の活動により劣化し、クリーニングが実施できない状況になってしまったため新たな着ぐるみを制作した。

また、みずんのグッズを求められる機会が増えたり、イベントのノベルティとしても活用できるためシールを作成した。

### 2. 事業の概要

#### (1) グッズ等作成

ア 着ぐるみ作製：令和6年6月28日（金）～令和7年1月31日（金）

イ シール作成：令和6年11月20日（金）～令和7年3月31日（金）（予定）



着ぐるみ



シール

#### (2) 活動実績（主なもの抜粋）

ア 安曇野市×あずさマルシェ in LUMINE AGRI MARCHE

(ア) 事業概要 市内の生産者・事業者とともに首都圏のみなさんに、採れたてスイーツコーンや果物、加工品を始めとした市の魅力をPRするため、農産物等の販売を行うイベント。

(イ) 開催日と場所 令和6年9月20日（金）～9月21日（土）

JR 新宿駅 ミライナタワー改札外

(ウ) 成果 みずんの登場でイベントに興味を持ってくださった方がたくさんいて、安曇野のPR、イベントの盛り上げに貢献した。



売場に立ち一緒にPR

## イ The Japan Rail Fair 2024

- (ア) 事業概要 シンガポールで安曇野市産農産物や加工品を販売し、インバウンドの誘客と農産物への関心醸成につなげることを目的としたイベント。
- (イ) 開催日と場所 令和6年10月11日(金)～10月13日(日)  
JAPAN RAIL CAFE 前広場
- (ウ) 成果 みずんの登場で会場は大盛り上がり。安曇野の魅力を海外の方にPRし、キャラクターとともに「安曇野」「美味しい農産物」というイメージを持ってもらうことができた。



安曇野の魅力をPR



現地の方と写真撮影

## ウ えんてい田んぼ事業 (ぬかくどご飯会)

- (ア) 事業概要 園児が田植えからすべて自分たちで育てて収穫したお米を、ぬかくどを使って炊き上げ実食する。
- (イ) 開催日と場所 令和6年12月10日(火) 有明あおぞら認定こども園
- (ウ) 成果 園児と触れ合う機会になり、地元での認知度拡大や安曇野はきれいな水があり種類豊富で美味しい農産物があるということを認識してもらえた。



園児と一緒にぬかくどの様子を観察

## 3. 成果の活用と今後の方向性

安曇野市内のみならず、県外や海外でも活動することができた。今後は作成したグッズ等を活用し、みずんと安曇野市の農業全体のPRに努めていく。

また、SNSでの情報発信も定期的に行う。



再生協 インスタグラム



再生協 X

# MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing, contained within a rounded rectangular border.

# MEMO

A memo sheet with a dashed line border and horizontal dashed lines for writing. The sheet is oriented vertically and contains 20 horizontal dashed lines for writing, starting from the top and ending near the bottom. The word "MEMO" is written in a bold, orange font at the top left corner.

令和7年3月

---

## 安曇野市農業再生協議会

<https://www.city.azumino.nagano.jp/site/saiseikyo/>

(事務局：安曇野市 農林部農政課内)

〒399-8281 長野県安曇野市豊科 6000 番地  
TEL: 0263-71-2000 • FAX: 0263-71-2507

---